

3火～6金 伝道実践

近隣の町でのトラクト等の配布や訪問伝道、関係づくりなどを行います。その他、伝道ライブなども行います。

10火 始業式

今期は、2017年度後期の始業式のみが執り行われます。来年は入学生が与えられるよう、お祈りください。

12木,13金 聖書交読

聖書を一人一節づつ輪読します。


17火,20金

集会の制作 大野 護師

教会関係のイベントや集会などでの、音響や照明、舞台スタッフなど、裏方で奉仕する際に必要な知識やスキル、そして心構えなどを学びます。

講義

18水,19木

キリスト者の考え方 永井 学院長

この講義では、過去の様々な体験から、自分が持っている考え方や傾向を知り、またそれに向き合い、キリスト者としてどのような考え方が必要かを学びます。

講義

24火～27金

聖書の人々 永井 学院長

聖書に登場する人物（預言者や士師、王など）それぞれの歩みや、神との関係などを考察し、信仰者としての在り方を学びます。

講義

Column 学院長のデスクから

ここ東北ではすっかり稲刈りが終わり、いよいよ冬支度が始まっています。皆さまのお祈りに支えられ、拡大宣教学院では2017年度後期をスタート、学びと訓練の日々が続いております。

来年4月からの入学の募集をはじめています。ぜひ、収穫のための「働き手」となる方々が遣わされてきますよう、お祈りください！（拡大宣教学院理事会では、12人の学院生を目標に募集、祈っています。）

また、30年目となる施設の老朽化が進み、緊急の修繕を必要な箇所があります。ぜひ覚えていただき、ご支援のほどよろしくお願いたします。

皆さまのお働きに豊かな収穫が与えられますように！

学院長 永井信義



編集後記

東海林 真

まず、編集後記に入る前に、本号の発行が大幅に遅れてしまったこととお詫びいたします。申し訳ありません。次号は、第一週の日曜日に各教会で配布できるように発行したいと思います。

さて、今回の編集後記は、本誌のイベントレポートだけではお伝えできなかった事が他にもあり、そのなかから少しだけシェアさせて頂ければと思います。

GTまつりの最初のミーティングをする前のある日、私は、前日も実行委員長をして下さった木原主事に声をかけ、「出来るかどうかは後にして、まず、夢を語りましょう!!」と提案しました。この「夢を語ろう」という言葉は、実は、地元いわきでクリスチャン仲間と一緒にカフェを開く計画があり、そのミーティングのなかで、ある牧師が言った言葉でした。私は、この言葉にもの凄く共感し、何かを始める時に本当に必要なことだと思いました。クリスチャンならなおのこと、主に信頼し、期待して夢を語る事が必要だと思いました。ですから、このGTまつりに関しても、まずそこから始めたいと考えていました。そして、最初のミーティングで夢が語られました。そこで語られたことが現実に動き始め、必要なものが備えられていきました。

ステージや綿あめの件も含め、今回のこと全てが御心に叶っていたとは言いません。きっと主の哀れみによるものも多いでしょう。それでも、私たちが、主を信じて一歩踏み出し、主と共に歩むなら、そこには、主による備えがあり、祝福を受ける事が出来ます。主の素晴らしい御業を体験出来ます。イサクを連れて山に登ったアブラハムや、イエス様に従って船を深みに漕ぎ出し、網を降ろしたペテロのように。

アドナイ・イルエ!! 恵み深く、哀れみ深く、私たちに良いものを備え、良いもので満たす主に期待します!!

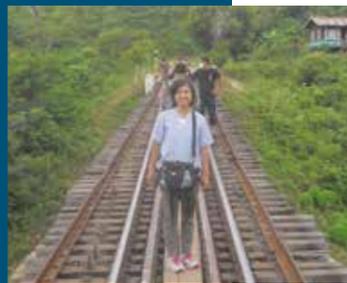


Kakudai Mission Institute No.350

Magnify

拡大宣学院 機関紙 マグニファイ

全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。



東南アジア宣教記

イエス・キリスト福音の群 茨木キリスト福音教会 伝道師 松田 祐子 師

8月18日～25日の1週間、ある宣教会団主催の宣教旅行で東南アジアの国へ行き、日本から遣わされている宣教師たちを訪ね、先生方の宣教の現場を、実際に自分の目で見て、聞きいて、異文化に触れる経験をしました。

「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい」(マルコ16:15)と言われたイエス様の大宣教命令。実際には、誰もが宣教師の様に海外に出て行けるわけではありません。しかし、とりなしの祈りやささげものを通して海外宣教の働きに携わることはできます。ほんの一部ですが、この紙面を通して、実際見て聞いてきた事、今起きている神様の御業をお分かちしたいと思います。

私たちは、現地の未伝部族に使命をもち、3人の小さな子供を抱えながら伝道しているK宣教師ご家族を訪ねました。K先生は、10年間未伝部族を追い求めているD先生と共に宣教活動されています。私たちは、ご家族と共に、水も電気もなく、トイレもない(2012年に出来た小学校に2つだけある)T族の住むC村へ出かけて行き、それぞれ村人の家に泊めて頂きました。言葉は全くわからず、宿泊先でも身振り手振りで必死にコミュニケーション。この時ほど彼らの言語を理解したいと思った事はありませんでした。

K先生とT族との出会いは、こんな所から始まりました。K先生は一部族をずっと追い求めている中で、ある人から「T族って知っているか」と尋ねられました。全く聞いた事のない部族で、居住地周辺でも誰も知りません。ある月の市で作物を売りに来ていたたった一人のT族がいました。「住まいはどこ?」と尋ねると、向こうの山を指して「あ～っち」と。その方向を目指して、バイクで道なき道を通って、たどり着いた所がT族の住むC村だったので。その後、何度もその村に行く中で、「なぜ何回も来るか」と村人から言われたので、彼らの必要を尋ねると、貯水槽(雨水を溜めるため)と返答。村の人々は、毎日水汲みに片道1時間半の道のりを歩いていました。そこで、自分たちの手で頑丈な貯水槽を作る事を提案し、村人も賛成。K先生はそこに住む勢いで、村人たちと共に作業し、6メートル掘り続けました。2か月後、他には無い、子孫まで残す事のできるほど頑丈な貯水槽が完成しました。

実は、貯水槽工事の前にK先生は、この村に奇蹟的に導かれてきたことや「神の愛」を村の人々に伝えていました。しかし、工事中は殆ど福音を語らず、

とにかく関係作りをし、彼らと狩りをしたり、池で水浴びしたり……ずっと前から居る人のように、彼らと同じように生活しました。そして創造主を、イエス様を、団らんの時に少しずつ分かち合っていました。そんなある時、村長が「その神様に拝みたいが、何か特別な祈りや祭壇を築いたりするのか」とK先生に尋ねました。村長の内にしっかり福音が届いていたのです。そして貯水槽の完成が近くなった時、村長が信仰告白へと導かれました。村長は信仰告白後すぐ「T族に自分たちの言葉でこの事を伝える責任は自分にある」と言われたのです。「伝道」と言う言葉すら知らないのに。村長は毎日、農作業や籐の籠を編みながら村の一人の青年に語り続け、彼もまた信仰告白へと導かれていきました。また、隣の家(竹で作られている家)の隙間から耳を傾け、K先生と村長とその青年たちの話を聞いていた男性も、「あの神様に祈ってみたいと思って祈ったら、鳥肌が立ち、神がいるとわかった」と信仰が与えられました。この国や村々には土着宗教があり、他の信仰を持つことで迫害に遭い、いつ焼き討ちに遭うか、村から追放されるかわからないなか、この3人の村人は「死んでも天国や」と自ら告白し、6月にはD先生宅で受洗へと導かれました。

未伝と言われる所で彼らが救われただけじゃなく、本当の神を知った人々の上や、この地の産物を主は特別に祝福しておられました。私たち宣教チームもジャガイモの収穫の手伝いをしましたが、農作物が例年では考えられないほど豊作で、天候も、この村上空だけ雨が降って、直ぐ晴れて、また降って……と作物には最適の天候で、他の村から「どうやって雨を呼んだのか、どんなささげものをして精霊の神を呼んだのか」と聞きに来るほどです。「私のことばと宣教とは、説得力のある知恵のことばによって行なわれたものではなく、御霊と御力の現れでした。」(コリント2:4) 誰が見てもわかるくらいの祝福がこの地に注がれ、現在も主の御業は進行中です。

「ユダヤ人にはユダヤ人になりました。それはユダヤ人を獲得するためです」(コリント9:20)とあるように、T族と寄り添い、彼らの隣人となったからこそ、この地の宣教が前進し始めたのです。とりなしの祈りによっても海外宣教に携わりつつ、「あなた自身のようにあなたの隣人を愛しなさい」と主が言われるように、自分たちの隣人である家族や友達にも驚くべき神の御業が現される!!と、単純に信じて、みことばの力を共に見ようではありませんか。

CONTENTS

巻頭メッセージ
東南アジア宣教記
松田 祐子 師

イベントレポート
ゴスペルタウンまつり

BOOK あらかると

ゴスペルタウン



9月24日、昨年復活した「ゴスペルタウンまつり」を今年も開催しました!! ハレルヤ!! 感謝です!! 何が感謝かと言ったら、ご協力してくださった方々は勿論ですが、やはり何よりイエス様に感謝です!! イエス様は、今回のゴスペルタウンまつり(以下GTまつり)を通して、準備の段階も含め、初めから終わりまで、本当に沢山の素晴らしい御業を現してくださいました。それらを是非シェアさせて頂きたいと思います。

今年の5月か6月に、GTまつりの最初のミーティングを行いました。そのなかで、今回はちゃんとステージを設置したいという事になり、レンタルか購入かで話し合った結果、購入する事になりました。しかし、それを購入するお金は全くありません。しかし数日後、何と!? ステージ購入の為の献金が捧げられました。ハレルヤ!! ですが……その後、私の調査不足によって、ステージを最低必要な大きさにするには、報告した金額の倍が必要だという事が発覚しました。



ステージイメージ



ステージテント

同時に、ステージの屋根をどうするかという課題もありました。ちゃんとしたステージテントとなると、レンタルするにしても、結構な金額になります。そこで、足場パイプで自分たちで作る事を提案しました。私は、過去に仕事で何度か足場を組んだ経験があったからです。既に、この時点(10年以上前)で、主の備えがあったと言えます。ハレルヤ!!

しかし、それだけではありません。実際にステージの屋根を組むのに必要な足場材を揃えるにしても、前述したように、ステージ購入のお金も全く足りていない状況なので、購入するのが困難です。そこで、足場材を借りたり、安く手配出来たりしないか、近所の建築関係の方に相談してみる事になりました。(この区長さんのお孫さんが、私の長男と同級生で、子ども会などで息子さんにもお世話になっています。そもそも、この繋がりも、主が備えて下さったものでしょう。)後日、区長さんのお宅にお邪魔し、諸々ご相談したところ、何と!? 区長さんのところに、使わない足場パイプが20本近くあり、それを頂けることになりました。ハレルヤ!!

こうして足場パイプが与えられたので、それ以外に必要な部材を購入し、あとは、足場を組むのみ。しかし、経験があるにしても、少し心配だったので、内装工事のお仕事をしている教会メンバーのKさんに協力して頂こうと考えました。ただ、Kさんにも本業の仕事があるので難しいかなと思いつつも、連絡してみました。すると!? 作業に必要な材料が入荷しないため、ステージの屋根を組む日は、ちょうど仕事が休みで、手伝ってくださることになりました。ハレルヤ!! このようにして、あらゆる物や人が、主によって豊かに備えられ、必要が満たされていきました。



足場材でステージ屋根を作成



今回借りた物と同機種

まだあります!! 最初のミーティングで「綿あめ」を出す案がありましたが、これもまた、まともな綿あめ機をレンタルするとなると、それなりの金額になるので、なかば諦めていました。しかし!? (もうここまで来ると予想出来ると思いますが) 何と!? ある教会に結構本格的な綿あめ機があり、それを借りる事が出来ました!! ハレルヤ!!

さて、冒頭で書いたステージに関してですが、予算をオーバーしても、やはり必要だという事もあり、購入する事にしました。ですから、実行委員会の会計としては赤字の状態であり、あとはGTまつり当日にどれだけペイ出来るかというところでした。ただ、それら全てを GT まつりの収入で補うのは、さすがに難しいので、主にゆだね、でも期待して祈りつつ、当日を迎えました。



今回購入したステージ



それぞれの準備の様子

さあ、いよいよ待ちに待ったGTまつり当日です。開始前から続々と人や車が入場して来たので、結構バタバタした感はありましたが、予想をはるかに超えた来場者数となり、まさに大盛況でした!!



今回のGTまつりで一番の祝福だと感じたのは、何より地域の方々が、沢山来てくださった事です。さらに、紅白歌合戦(カラオケのど自慢的なもの)やバンドなど、ステージのプログラムにも、地域の方が参加して下さいました。このゴスペルタウンと地域の方々の距離が、また一歩近くなったと感じる事が出来ました。そして、同じことを、何と!? 地域の方々も感じて下さっていたようで、区長の息子さんが「地域の方たちとゴスペルタウンの方の壁がなくなってきたね」と言っていたそうです。これは、本当に嬉しい情報でした。まさしく、このGTまつりは、そのために開催したわけですから。このGTまつりをきっかけに、この場所に一人でも多くの方が来られるよう、特に地域の方が来てくださって、関係を深めていく事が出来るよう、そして何より、そこからイエス様へとつながるように、私たちを通してイエス様に出会えるように、そういった目的で開催しているので、小さいかもしれませんが、その実(いや、まだ芽ですかね)を感じる事が出来たのは、本当に嬉しい事ですし、感謝な事です!! ハレルヤ!!



癒しとくつろぎ



オリジナルTシャツを作りました!!



七輪で和を味わう。



鉄板焼き(焼きそば)や田楽も大好評!!



凛とした女性方が迎える野点



手作り雑貨も好評でした。



今年も「SPARK」さんが出店



手作りのパンとクッキーも販売



今年のステージも盛り上がりました!



9月生まれの誕生日をお祝いしました!!



綿あめとアメちゃんすくいも人気!!

最後に、GTまつりが終わり、会計をまとめましたが、やはり赤字でした。それも結構な……。ただ、これまで主が、あらゆるものを備え、必要を与え、導いてくださった事、その素晴らしい御業を想うと、期待せずにいられませんでした。結局、その不足分も、主が満たして下さるのではないかと。そして後日……それは、期待したとおり、その為の献金によって満たされました。いえ、実際には、神様はそんなケチな方ではないので、いくらかの収益が出ました。ハレルヤ!!

これらの事を経験してから、私は毎日、主に期待せずにいられない毎日を過ごす事が出来ています。願わくば、これが一時的なものではなく、これからもずっと、今以上に、さらに主に信頼し、期待し続けていく事が出来すように。

BOOK あらかると

永井信義

幅広く、そして、多くの読者を魅了してやまない、ティモシー・ケラー(米国ニューヨーク市リディーマー長老教会牧師)の『イエスに出会うということ』(いのちのことば社)は、主イエスとの出会いへと読者を導く、おすすめの一冊です。副題は「人生の意味と思いがけない答え」で、本書を読み進めることによって、福音書に登場する人物をとおして、そして、彼らの一人ひとりの主イエスとの出会いから、私たちは人生を歩む中で対峙していかなければならないさまざまな問題に対する答えを見出すことができます。

